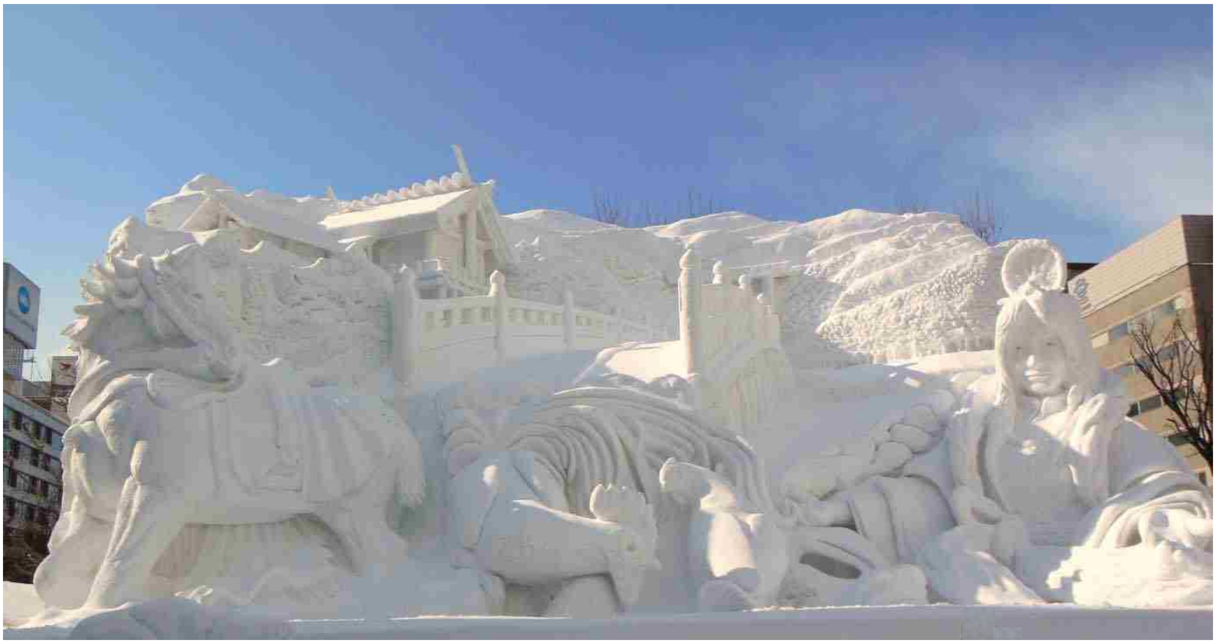
防衛北海道

Bouei Hokkaido
April 2013
Hokkaido
Defense Bureau
Ministry of Defense

Vol.27



Photo：(上)降雪の中、「第64回さっぽろ雪まつり」の大雪像を制作する陸上自衛隊員（提供：陸上自衛隊第１１旅団）
(下)完成した大雪像「伊勢 神話への旅」（撮影：北海道防衛局）
※陸上自衛隊が制作した大雪像の写真は裏面にも掲載しています。

編集・発行 **防衛省北海道防衛局 広報誌等編集委員会**
札幌市中央区大通西12丁目 札幌第３合同庁舎
Tel.011-272-7579
http://www.mod.go.jp/rdb/hokkaido/

苫小牧市で防衛問題セミナー開催

テーマ：津波被害の特性と大規模災害への備え

平成２５年２月13日、北海道防衛局は苫小牧市文化会館において、「津波被害の特性と大規模災害への備え」と題して苫小牧市との共催により防衛問題セミナーを開催しました。

道内で23回目の開催となった今回のセミナーは、災害対処に係る防衛省・自衛隊の役割について理解を深めていただくとともに、一昨年の東日本大震災を契機として見直しが始まっている地域防災計画の参考としていただくことを目的に開催しました。

冒頭に、島川 正樹 北海道防衛局長が挨拶した後、今回のセミナーに共催いただいた 岩倉 博文 苫小牧市長から御挨拶をいただきました。

まずは、防衛大学校 システム工学群建設環境工学科 藤間 功司 教授から「津波被害の特性」と題して、津波の発生や伝播のメカニズム、東日本大震災において発生した津波の状況、津波防災のあり方などについて、学術的内容をかみ砕いて講演していただきました。

その後、陸上自衛隊 北部方面総監部 幕僚副長 川﨑 朗 陸将補から「大規模災害への備え」と題して、東日本大震災時に副師団長として指揮を執った第９師団の活動状況、災害対処の経験を踏まえた災害への心がけや準備などを、市民の方々や自治体職員に対し、分かり易く講演していただきました。

最後に、参加者から寄せられた「津波が8.5メートルの時、海抜11メートルの地点は大丈夫か」、「海岸近くに石油貯蔵施設などがあり、これらが大きな被害を受けた場合、火災等の大規模災害を想定する必要はないのか」といった質問に対し、藤間教授から丁寧な回答が行われました。

当日は、388名の方々が来場され、熱心に耳を傾けていただき、セミナー終了時には、来場していただいた皆様から盛大な拍手をいただきました。

島川 正樹 北海道防衛局長の挨拶

岩倉 博文 苫小牧市長の御挨拶

防衛大学校 藤間 功司 教授による講演

北部方面総監部 川﨑 朗 陸将補による講演

☆各講演のポイント☆

●津波被害の特性（防衛大学校　藤間教授）

- 海岸線から数キロメートル離れた市街地も津波にとっては「波打ち際」であり、津波のスケールを知ることが重要
- 東日本大震災時から得た教訓
  - (1)ハザードマップの想定以上の津波は来ないという誤った解釈
  - (2)堤防があるから大丈夫、大きな被害は出ないという思い込み
- 過度に心配しなくてもよいが、絶対の安全はないことを認識した上で、
  - (1)人命を守るための避難方法を各自が確立
  - (2)災害に強いまちづくり
  - (3)堤防などが機能したかで被害規模が異なるため、継続的なハード整備も重要

●大規模災害への備え（北部方面総監部　川﨑陸将補）

- 自らの身を自ら守るという「自助」の意識を持つ
- 普段から避難の経路・場所・手段を確認
- 避難所の質の向上のために、
  - (1)市町村の基礎データ整備と、発災時のニーズ把握のための手段を日頃から準備
  - (2)被災者同士の助け合いが必要
  - (3)被災者のメンタルヘルスが必要
- 行政が中心となって、情報の集約・即断即決のリーダーシップを発揮
- 避難所と競合しないように自衛隊・消防等の集結地を選定
- 苫小牧港は、部隊の移動や物流拠点として重要

熱心に聞き入る来場者

北海道内の防衛施設

道場巡り　～日本最大の道場～　矢臼別演習場（別海町）

本シリーズは、日頃なかなか目に触れることの少ない防衛施設にスポットを当て、皆様に御紹介するものです。

陸上自衛隊 矢臼別演習場は、我が国最大の演習場です。

別海町、厚岸町、浜中町の３町にまたがり、その広さは約１６８平方キロにもなります。また、演習場内には７０以上の建物があり、別海駐屯地業務隊が管理しています。演習場の大半は立木と笹に覆われた緩やかな丘陵地帯で、場内にはヒグマや鹿等の野生動物が数多く生息し、ヒグマが目撃されることもあります。

同演習場では、その広大な敷地を生かして師団規模、人員にして3,000名以上の隊員による総合戦闘力演習が１か月以上にわたり実施されます。長射程射撃訓練や野営訓練、偵察訓練、パラシュート降下訓練等のほか、射場では協同転地演習による中・重砲長距離射撃訓練、特科による射撃訓練等が実施され、爆破訓練場では航空自衛隊による実爆を伴う滑走路の被害復旧訓練が実施されています。これら訓練以外にも経済産業省が民間や試験研究機関では実施できない火薬類保安技術基準を策定するための火薬類保安技術実験を陸上自衛隊の協力を得て実施しています。

また、沖縄県道１０４号線越え実弾射撃訓練の分散・実施の本土への移転により、米海兵隊による訓練も平成９年度から実施されています。

このように矢臼別演習場は、年間平均３００日以上、延べ２６万人以上の隊員が全国各地から訪れ、練度向上のための厳しい訓練に励んでいます。

重物料投下訓練

多連装ロケット(MLRS)射撃訓練

矢臼別演習場での訓練状況（写真提供：別海駐屯地）

防衛施設所在の首長さんからのメッセージ

別海町
水沼 猛　町長

別海町は、北海道東部、根室管内の中央部に位置する人口16,000人の町です。

当町には、国内最大の矢臼別演習場が所在し、全国の各部隊による協同転地演習が展開され、年間約300日、延べ２６万人以上の隊員による大規模な訓練が行われています。

また、町内には陸上自衛隊別海駐屯地が置かれ、隊員約300名が常駐しています。隊員の方々には災害時における支援はもとより、本来任務を離れても御家族と共に町の諸行事や地域活動に積極的に参加いただくなど、地域との密着した協力関係が築かれています。

昨年当町で開催された全道的なイベント「新・ご当地グルメグランプリ北海道」では、多くの隊員の協力を得て盛況のうちに終了することができました。

当町と自衛隊は、今日までこのように共存しながら発展してきました。この関係を今後も維持し、協力体制を更に強化していきたいと考えております。

さて、ここで最近のトピックスを紹介いたします。当町では近年、基幹産業の酪農や漁業による豊富な食材を利用してご当地グルメを開発、これをきっかけにした地域おこしに取り組んでいます。前出のＢ級グルメを競い合う食のイベントへの参加や、アンテナショップ「別海町酒場」を東京に展開するなど、食のアピールを積極的に行うことで、「別海町」の知名度は確実に上がっています。

是非当町にお越しいただき、自慢の「ジャンボホタテバーガー」をはじめとするご当地グルメを御賞味いただきたいと思います。

７月７日、８日に開催された
ご当地グルメグランプリ（別海町提供）

平成24年度 北部方面隊災害対処指揮所訓練
～初の北海道との共催・関係機関等との連携～

高橋知事に状況を説明する川﨑陸将補

訓練終了に伴う岩田総監、高橋知事の共同会見

災害対策現地合同本部会議

陸上自衛隊 北部方面隊（総監　岩田 陸将）は、平成２５年１月２３日から２５日までの間、北海道との共催により「災害対処指揮所訓練統裁支援システム（ＵＭＣＥ）」を使用して『平成２４年度方面隊災害対処指揮所訓練』（北海道の訓練名称は「北海道都市型震災対処訓練」）を実施しました。

北海道との共催による訓練は初めてであり、北海道、札幌市をはじめとする石狩管内８市町村、北海道警察、北海道開発局、ＮＴＴ東日本北海道支部、北海道ガスなど１８機関、海上自衛隊、航空自衛隊、在日米陸軍現地調査班（ＤＡＴ）のほか、オブザーバー参加の自衛隊隊友会及び米国総領事館を含め、約2,３００名が参加しました。

本訓練は、北海道をはじめ関係機関等との連携、海上・航空自衛隊との協同、米軍との共同及び我々の指揮幕僚活動を演練して方面隊の災害対処能力の向上を図り、かつ、方面隊が保有する災害派遣計画の更なる実効性向上のための検証を狙いとして実施しました。想定は、「厳冬の札幌直下地震」という厳しい状況で、北海道としては初めてとなる２夜３日の連続状況の訓練となりました。

方面隊として、東日本大震災及び阪神・淡路大震災の教訓（自衛隊と自治体及び関係機関等との更なる連携の必要性）を反映し、北海道庁内に設置された災害対策現地合同本部に連接して方面連絡調整所を開設し、北海道をはじめ自治体、関係機関等と状況に即した実際的な調整により連携することは極めて有効であり、それを訓練できたことは大きな成果でした。

また、方面隊が整備してきた『道央地域（札幌地区）大震災対処計画』【発災後、速やかに約２万人を投入】についても、各部隊が明確な目的をもって訓練に取り組むとともに、関係機関と直接連携をとることで、計画の実効性を高め、より効果的な活動を行うための様々な教訓が得られました。

今回の災害対処指揮所訓練統裁支援システム（ＵＭＣＥ）を使用した指揮所訓練は、効果的な訓練を効率的に実施できるものであり、将来的には、釧路沖の日本海溝・千島海溝・周辺海溝型地震に備えた訓練にも拡充し、今後も継続していきたいと考えています。

海上自衛隊・航空自衛隊との連携

在日米陸軍現地調査班(DAT)との連携

海上自衛隊　函館基地隊の活動
～護衛艦「いせ」の災害対処機能を公開～

海上自衛隊 函館基地隊（司令　五島 一等海佐）は、函館基地隊本部、松前警備所、竜飛警備所及び第４５掃海隊で構成され、防衛警備、災害派遣、艦艇に対する後方支援、広報等を任務とする部隊です。

昨年、当基地隊は創設６０周年を迎え、記念行事、大湊音楽隊による演奏会などを実施して地域住民との交流を深め、地元函館市民はもちろん道民に信頼される部隊として活動しています。

新年早々には、海上自衛隊の最新鋭護衛艦「あきづき」、ヘリコプター搭載大型護衛艦「いせ」及びイージス護衛艦「ちょうかい」が相次いで入港し、北の艦艇後方支援部隊として補給、休養等の支援を行いました。

特に「いせ」は、東日本大震災において、洋上の救援基地としての能力を如何なく発揮した海上自衛隊最大の護衛艦「ひゅうが」の同型艦であり、その強力な災害対処機能を紹介するため、道南地区の自治体等の防災関係者を招いて特別公開を行いました。

本特別公開では、同艦の洋上の防災拠点としての災害対処能力について説明会を実施し、災害時に必要な通信機能や食料等の完備、収容能力の高さ、大規模な災害にも対処できる医療施設や捜索救難のためのヘリ装備等の説明を行い、防災等に対する相互の理解を深めました。

函館基地隊は、本年度も基地解放、各イベント等に積極的に参加し、地元住民との関係を更に良好にするため広報活動等に努めていきます。

函館山を背景に入港する護衛艦「いせ」

防災関係者に対する説明会

航空自衛隊　千歳基地
厳寒の千歳川で操縦者等冬季水上保命訓練を実施

航空自衛隊 千歳基地（司令　金古 空将補）は、平成２５年２月２２日、千歳川において操縦者等冬季水上保命訓練を行いました。

操縦者等水上保命訓練は、毎年、夏（支笏湖）と冬（千歳川）、操縦者等に水上保命法の教育及び漂流訓練を行い、救命装備品等の的確な使用法を体得させ、水上保命能力を向上させることを目的に行われています。

今回は、気温が氷点下１３度、水温１度の厳寒の千歳川で、寒冷時における訓練が行われました。

水上で緊急脱出したことを想定した訓練者は、自力で救命浮舟に乗り込み、浮舟内の水を排出し、スプレーシールドを確実に閉め、漂流を開始しました。その後、訓練の指導を行う隊員が、訓練者の救命浮舟を揺らしたり、転倒させるなど、水上での実環境を現示し、漂流中における水上保命法の再確認を行いました。

参加した隊員達は、水に濡れた顔や足先の冷たさ、そして、耐水服の隙間から入る水の冷たさに体を震わせていました。

千歳川での保命訓練

訓練者に自然の猛威を演出する隊員

◆ Series　北海道防衛局の業務　＜Part.9＞

北海道には自衛隊等が使用する演習場・飛行場など、数多くの防衛施設が所在しています。

これらの防衛施設は自衛隊等の活動の基盤として、北海道はもとより我が国の平和を守る上で不可欠であり、そのため、周辺地域の皆様の理解と協力を得ながら円滑に使用していく必要があります。本誌では、防衛施設と周辺地域との調和を図るための様々な施策について、シリーズで御紹介しています。

■ 調達部業務（その２）

建築課、土木課、設備課の業務

前回は調達部業務の概要と調達計画課の業務について紹介しましたが、今回は建築課、土木課、設備課の業務について御紹介します。

建築課、土木課、設備課では、それぞれ、①工事の設計に関すること、②工事費の積算に関すること、③工事の施工の促進、監督及び検査に関すること、④工事に関する調査及び研究に関することを担当しています。

帯広防衛支局においては、これらの業務を建設課の一課で担当しています。

各課担当の建設工事の具体的な施設例は表１のとおりです。

官公庁施設の建設等に関する法律（昭和26年法律第181号）によると、国費の支弁に属する営繕及び建設並びに土地又は借地権の取得は、国土交通大臣が行うとされていますが、防衛省の特殊な建築物の営繕及びその附帯施設の建設は、同大臣の所掌事務外とされていることから、防衛省が自ら実施しているものです。これは、防衛施設の整備は我が国の防衛計画の一端を担うものとして、部隊の編成や装備の配備等と深く関わっていることから、防衛省で一元的に遂行することで、より効率的、効果的に整備が可能となるためです。

（表１）

担当課	建設工事の種類	具　体　的　施　設　例
建築課	建　築　工　事	庁舎、隊舎、病院、整備場、管制塔、格納庫、体育館、食堂、公務員宿舎等
土木課	土　木　工　事	滑走路、岸壁、桟橋、道路、大規模燃料タンク、上下水道施設等
設備課	電　気　工　事	受変電設備、航空灯火設備、監視制御設備、照明設備、避雷設備等
	機　械　工　事	給排水設備、衛生設備、空調設備、昇降機設備、燃料供給施設、ボイラー施設等
	通　信　工　事	電話設備、テレビ共同受信設備、構内情報通信網、放送設備、情報通信設備、レーダー施設等

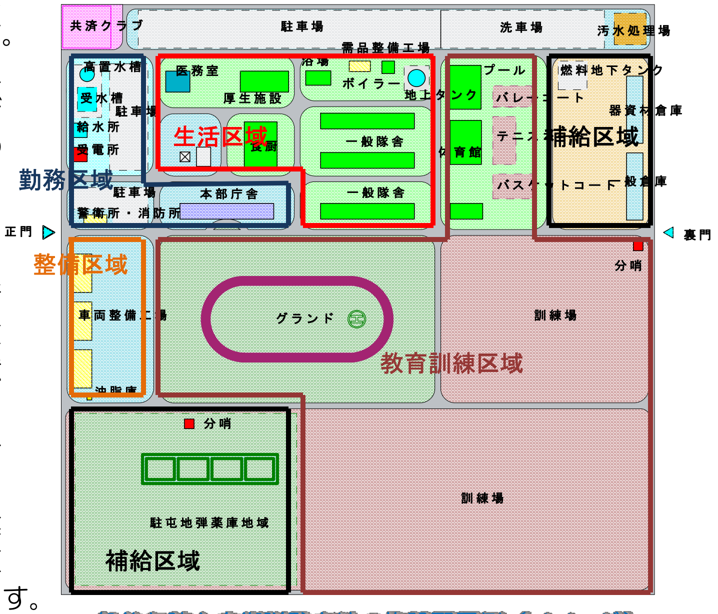
自衛隊施設の設計業務においては、エンドユーザーである自衛隊各部隊の要望する施設計画に基づき、要求部隊や司令部、防衛本省等と調整を実施しつつ、より良い計画を要求部隊に提案し、具現化していきます。

防衛庁発足当時から昭和６０年代前半までは、職員自らが設計図書を作成する、いわゆるインハウス・デザインで執行していましたが、業務量の増加や事務の合理化の観点から、近年は、設計業務を外部の設計コンサルタントに委託して実施しています。

その際、技術経験の豊富な職員が、設計コンサルタントの支援を得て、建築基準法や消防法等の各種技術法令に適合させるとともに、自衛隊施設としての各種設計基準等に基づき、また、周辺地域との調和に配意しつつ設計しています。

このようにして出来上がった設計図書に基づき、各種設計単価を用いて工事費の積算を行います。

競争入札を経て契約者が決定されると、関連する建築・土木・設備課の担当者が連携して、当該契約の適正な履行を確保するために必要な監督・検査を行います。



一般的な陸上自衛隊駐屯地の施設配置例（イメージ）

通常、これらの建設工事は、設計から工事完成までに複数年を要し、調達部各課の担当者のほか、要求部隊や司令部、防衛本省、地方自治体等との調整のため、多くの関係者の手を経て部隊に引き渡され、自衛隊の運用に供されます。

自衛隊の駐屯地・基地は、自衛隊の活動の基盤、隊員の教育訓練の場であるとともに、営舎（隊舎）内居住義務のある曹長以下の隊員の生活の場であることから、イメージ図に示した一般的な陸上自衛隊駐屯地の施設配置例のように、①庁舎・管理施設の所在する勤務区域、 ②隊舎、食堂、浴場等の所在する生活区域、

（表２）

自衛隊施設区分	具　体　的　施　設　例
事業関連施設	庁舎、飛行場、港湾、弾薬庫等
生活関連施設	隊舎、食堂、浴場、体育館、プール、公務員宿舎等
環境保全施設	水質汚濁防止施設、騒音防止施設、環境保全施策を施した施設等
後方支援施設	管制施設、情報・通信施設、医療施設、整備補給施設等

厚生施設（千歳基地）

隊員食堂（札幌駐屯地）

整備場（真駒内駐屯地）

③装備品等の整備工場等の所在する整備・補給区域、④教場、訓練場等の所在する教育訓練区域等にゾーニングされ、さながら一つの小さな都市を形成しています。

また、自衛隊施設整備の予算区分のカテゴリーとしては、①事業関連施設（自衛隊の運用や活動に直接関わる施設）、②生活関連施設（隊員の生活に係わる施設）、③環境保全施設（自衛隊施設の維持・管理に伴い環境保全施策を施した施設）、④後方支援施設（自衛隊施設の運用や活動に間接的に係わる施設）の四つに大別され、これらの施設を表２に示します。

このように、自衛隊施設には、多種多様の種類があり、また、弾薬庫等のように自衛隊特有の特殊な施設も存在することから、調達部職員には幅広い知識と技術力が要求されます。

さらに、これらの特殊な施設は、整備例が少なく、部隊の運用所要に沿って建設され、道内各地の駐屯地・基地の運用に合わせた、いわばオーダーメイドの施設であることから、施設の完成時に得られる達成感は、担当者にとってかけがえのないものです。

また、地震、大雨、その他の災害等により自衛隊施設が被災した場合、調達部の技術力を活用して、技術支援等を迅速かつ的確に実施し、当該自衛隊施設の早期復旧を図るため、北海道防衛局長が指名した調達部各課の職員から構成される施設整備調査チームを局内に設置し、自衛隊の災害派遣時の活動が円滑に実施できる体制をとっています。

今後も、調達部各課は、自衛隊の運用所要に迅速かつ的確に応えるため、質の高い防衛施設を自衛隊に提供するという重大な任務を担っていきます。

建築物応急危険度判定訓練
（災害対処指揮所訓練時）

北海道防衛局 災害対処指揮所訓練実施

北海道防衛局は、平成25年1月23日から25日までの間、陸上自衛隊北部方面隊が北海道との共催により実施した「平成２４年度方面隊災害対処指揮所訓練」と連携し、大規模災害発生時における関係機関等との連携要領の確認及び実効的な体制の構築を目的として、災害対処訓練を実施しました。

この方面隊災害対処指揮所訓練は、厳冬早朝の札幌直下型地震を想定し、陸海空自衛隊、北海道、札幌市をはじめとする石狩管内８市町村のほか、関係行政機関及び在日米陸軍現地調査班(DAT)など、約2,300名が参加しました。

当局は、災害時の北海道地域防災計画の指定地方行政機関として、１）災害時における地方公共団体等への所管財産の使用許可、２）在日米軍が災害対策措置を行う場合の連絡調整支援、３）自衛隊の災害派遣において部隊等の長が実施する関係機関との連絡調整への協力を行う役割を担っており、局内に局対策本部を設置するとともに、北部方面総監部及び北海道庁へ連絡調整員を派遣し、昼夜を通して行った情報収集及び連絡調整内容に基づき、所要の業務処理の訓練を実施しました。

また、地方施設整備調査チームを札幌駐屯地等に派遣し、建物の応急危険度判定などの訓練も実施しました。

北部方面隊及び北海道と連携した訓練は、当局としても初の試みでしたが、当局の災害対処に対する訓練として、大変実りのあるものとなりました。

当局は、今後も不測の災害発生に備え、平素から地方自治体及び関係機関等との連携を深めていくとともに、効果的な災害対処活動を行うため、各種訓練に取り組んでいくこととしています。

（北海道防衛局対策本部）

平和を、仕事にする。

平成25年度　自衛官等募集

防衛省・自衛隊 MINISTRY OF DEFENSE

募集種目		募集人員	資格	受付期間 （締切日必着）	試験期日
航空学生		海 約70名（うち女子若干名） 空 約40名（うち女子若干名）	高卒（見込含）21歳未満の者	８月１日～９月６日	１次９月21日 ２次10月12～17日 ３次11月９日～12月12日
一般曹候補生		参考（24年度） 陸 約2,100名（うち女子約80名） 海 約1,000名（うち女子約40名） 空 約 750名（うち女子約80名）	18歳以上27歳未満の者	８月１日～９月６日	１次９月16・17日 ２次10月５～11日 ※いずれか１日を指定されます。
自衛官候補生	男子	参考（24年度） 陸 約6,400名、海 約 570名、空 約1,320名		詳しくは、最寄の自衛隊協力本部にお問い合わせ下さい。	
	女子	※３・４月採用 参考（24年度） 陸 約500名、海 約 80名、空 約130名		８月１日～９月６日	９月22～26日 ※いずれか１日を指定されます。
防衛大学校学生	推薦	人文・社会科学専攻 約20名（うち女子約 ５名） 理工学専攻 約80名（うち女子約 ５名）	高卒（見込含）21歳未満の、成績優秀かつ生徒会活動等に顕著な実績を納め、学校長が推薦できる者	９月５日～９月９日	９月28・29日
	総合選抜	約 40名 （うち女子若干名） 人文・社会科学専攻及び理工学専攻合わせて	高卒（見込含）21歳未満の者 （自衛官は23歳未満）		１次９月28日 ２次11月２・３日
	一般（前期）	人文・社会科学専攻 約 65名（うち女子約15名） 理工学専攻 約235名（うち女子約15名）		９月５日～９月30日	１次11月９・10日 ２次12月10～14日
	一般（後期）	人文・社会科学専攻 約10名（うち女子若干名） 理工学専攻 約30名（うち女子若干名）		26年１月22日 ～１月３１日	１次26年３月１日 ２次26年３月13日
防衛医科大学校　医学科学生		約 85名	高卒（見込含）21歳未満の者	９月５日～９月30日	１次11月２・３日 ２次12月18～20日
防衛医科大学校看護学科学生（自衛官コース）		約 75名			１次10月19日 ２次11月30日・12月１日

◆他の種目や詳しい内容は最寄の自衛隊地方協力本部へお問い合わせ下さい。

札幌地方協力本部　011(631)5472
函館地方協力本部　0138(53)6241
旭川地方協力本部　0166(51)6060
帯広地方協力本部　0155(23)2485

◆募集コールセンター

守ろうみんなの国　0120-063792　年中無休受付時間 12時～20時

自衛官募集ホームページ JAPAN SELF DEFENSE FORCES http://www.mod.go.jp/gsdf/jieikanbosyu/

自衛官募集　検索

自衛官募集携帯サイト

事務官等の募集については、人事院が行う国家公務員採用総合職試験（院卒者試験、大卒程度試験）及び国家公務員採用一般職試験（大卒程度試験、高卒者試験）の合格者から採用を行っています。なお、防衛省職員採用Ⅱ種試験で行っていた試験区分「語学」及び「国際関係」については、引き続き、防衛省が行う防衛省専門職員採用試験の合格者から採用を行っています。
※詳細な日程等については、防衛省のホームページに掲載しています。
※問合せ先：北海道防衛局総務部総務課人事係　011(272)7578

陸上自衛隊が制作した「第64回さっぽろ雪まつり」の大雪像：(左)歌舞伎座、(右)ワット・ベンチャマボピット
（写真提供: 陸上自衛隊第11旅団）

5月の道内自衛隊の主なイベント

（3月8日現在）

開催日	開催場所	イベント名	お問合せ
5月　上旬	函館駐屯地	函館駐屯地　観桜行事	函館駐屯地広報室　0138-51-9171
5月25日(土)	旭川市民文化会館 大ホール	第２師団音楽まつり	第２師団司令部広報室　0166-51-6111
〃	鹿追駐屯地	鹿追駐屯地 創立５６周年記念行事	鹿追駐屯地広報班　0156-66-2211

注：行事予定は都合により延期又は中止される場合がありますので、各部隊等へ御確認願います。